



Title	『修身学』の訳語
Author(s)	朴, 均轍
Citation	国語国文研究, 118, 63(12)-50(25)
Issue Date	2001-03-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94131
Type	journal article
File Information	kokugokokubunkenkyu_118_63-50.pdf



『修身学』の訳語

朴 均 轍

1 はじめに

本稿では、明治期の翻訳書である『修身学』の諸本を取り上げ、様々な訳語が試みられていた明治初期における訳語の実状および同じ原語に当てられた訳語の変遷を見たい。

2 資料および対象について

原典の Elements of Moral Science (1835) は、アメリカの倫理学者であるフランシス・ウェイランド (Francis Wayland, 1796–1865) が著したものである。日本では、明治 5 年に学制の公布があり「修身科」が独立した一つの教科として設けられるが、これを契機にこの書の訳書が相次いで出るようになる。訳書は、明治 5 (1872) 年から明治 15 (1882) 年までの間に 10 種類が出ている。その目録については、伊藤 (1969) と鈴木 (1988) とを参考にし以下にまとめておく。

- ① 『修身論』(前：明治 5.6、後：明治 7.1) 阿部泰蔵訳、市川清流校、文部省、国会図書館蔵本
- ② 『修身学上篇』(明治 6.5) 謝海漁夫訳、万卷楼刊、国会図書館蔵本
- ③ 『泰西修身論』(明治 6.6) 山本義俊訳、小川為治校、二書堂、国会図書館蔵本
- ④ 『修身学初歩』(明治 6.10) 保田久成訳、北村季林校、三報社、国会図書館蔵本
- ⑤ 『小学修身論』(明治 7.7) 山本義俊訳、秋吉省吾閲、万笈閣、筑波大学図書館蔵
- ⑥ 『修身学』(明治 8.6) 平野久太郎訳、西村隼太郎蔵版、国会図書館蔵本
- ⑦ 『修身之理』(明治 8.8) 高木真蔭撰述、山岸氏蔵版、国会図書館蔵本
- ⑧ 『啓蒙修身談』(明治 11.10) 神鞭知常識、青木輔清校、東生書館蔵版、国会図書館蔵本
- ⑨ 『初学修身学』(明治 15.2) 千村五郎著、柴田氏蔵版、国会図書館蔵本
- ⑩ 『威氏修身学』(上：明治 11.12、下：明治 12.6) 大井謙吉訳、文部省、国会図書館蔵本

翻訳にあたり⑩大井訳のみが本書を原本としており、①阿部訳～⑨千村訳は本書の

縮約版である Elements of Moral Science—Abridged, and adapted to the use of schools and academies, by the author を訳している。本稿では、縮約版の翻訳である①阿部訳から⑨千村訳までを調査の対象とする。但し、③山本訳・④保田訳・⑦高木訳は意識となっており、原語との対応が非常に困難なので対象から外す。その結果、実際は①阿部訳・②謝海訳・⑤山本訳・⑥平野訳・⑧神鞭訳・⑨千村訳のみが本稿の対象となる。なお、②の訳者である謝海漁夫は、⑧の神鞭知常と同一人物であり^{#1}、⑧神鞭訳と序文・本文が全く同じなので、ここでは手元にある⑧神鞭訳をもって②謝海訳の本文と見なす。①阿部訳～⑨千村訳の原文となっている縮約版は、大きく PART FIRST と PART SECOND とに分けられ、それぞれ 7 章と 15 章からなっている。但し、本稿では全 5 種に共通する、以下の PART FIRST の CHAPTER I ・II のみを考察の対象とする。

〈PART FIRST〉

CHAPTER I MORAL LAW,MORAL ACTION,AND OF INTENTION

SECT I *Of Moral Law*

SECT II *Of Moral Action and of Intention*

CHAPTER II CONSCIENCE

SECT I *What we mean by Conscience, and how Conscience admonishes us*

SECT II *Of the manner in which we may improve or injure our Conscience*

SECT III *Rules for our Moral Conduct*

量的には全体の 1 割 5 分程度である。各訳書から抽出した訳語数は表 1 のとおりである。

表 1 各訳書の対象訳語数

翻訳書	①阿部訳	②謝海訳	⑤山本訳	⑥平野訳	⑨千村訳
対象訳語数	320	173	96	280	136

対象訳語数は各訳書によって差があり、特に阿部訳と山本訳の間では 3.5 倍位の差を見せている。これは直訳か意識か抄訳かといった訳者の翻訳態度によって起こることである。なお、全 5 種に共通する原語が 42 語あり、これのみを取り上げる方法も考えられる。しかし、各訳書の対象訳語数に比べると、42 語というのはあまりにも少なく、実際に 42 語を対象にしていいくつかの項目について調べてみたところ、全体を対象としたものとほぼ同じ割合を見せているので、本稿では各訳書的全訳語を取り上げることにする。

3 対訳辞書および明治期漢語辞書との関係

3.1 対訳辞書との関係

ここでは、上記の5種の訳書が刊行された明治15年頃までの代表的な対訳辞書を取り上げ、訳書との影響関係を明らかにしたい。

- ・『英華字典』（慶応2—明治2）ロブシャイト、Daily Press
- ・『英和字彙』（初版、明治6.1）子安峻・柴田昌吉、日就社
- ・『英和字彙』（再版、明治15.8）子安峻・柴田昌吉、日就社

上記の対訳辞書を用いて、5種の訳書との一致する訳語を調べた結果は、表2のとおりである。

表2 各訳書と対訳辞書との一致する訳語数

翻訳書	①阿部訳 320	②謝海訳 173	⑤山本訳 96	⑥平野訳 280	⑨千村訳 136
『英華字典』 (%)	151 (47.2)	61 (35.3)	41 (42.7)	75 (26.8)	56 (41.2)
『英和字彙』初版 (%)	170 (53.1)	64 (37.0)	49 (51.0)	81 (29.0)	48 (35.3)
『英和字彙』再版 (%)	182 (56.9)	68 (39.3)	48 (50.0)	92 (32.9)	52 (38.2)

（カッコ内の数字は、各訳書の対象訳語数に対する割合である）

訳書と対訳辞書との訳語の一致率をみて、当時の訳語の安定度を推し量ることができると思われる。朴（2000）で取り上げている『干渉論』の「明治13年本」・「明治26年本」と対訳辞書との比較で分かるように、訳語が安定していれば安定しているほど、当時の対訳辞書との一致率は高いことが期待される。では、明治初期の『修身学』の場合はどうであるかを見てみよう。

訳書と対訳辞書との一致率において、阿部訳・山本訳・千村訳は、謝海訳・平野訳に比べれば高い。謝海訳・平野訳と対訳辞書との一致率が低いというのは、他の訳書に比べて相対的に独自の訳語を多く用いていることを意味する。以下、表2の統計をもとに、それぞれの対訳辞書ごとに各訳書との関係を見てみたい。

まず、『英華字典』の方から見てみよう。同辞書との訳語の一致率を見ると、阿部訳が最も高く平野訳が最も低い。刊行年から見て同辞書とは阿部訳が最も近いので、一致率が高いのは十分予想されることであろう。同辞書が当時の翻訳書に与えた影響については、森岡（1969）などにより明らかになっているが、阿部訳でも同じ傾向が見られる。しかし、謝海訳と平野訳では、阿部訳とほぼ同じ時期の訳書にもかかわらず、訳語の一致率は格段に低く、特に平野訳では阿部訳のほぼ半分にとどまっている。つ

まり、同辞書が幕末明治期の書籍に与えた影響が大きかったとはいえ、訳書によって差があったと言える。一方、千村訳は明治 15 年の刊行であり、他の訳書に比べて時代的に大きく下るにもかかわらず、相対的に高い割合を見せており、同辞書からの影響を強く受けていることが分かる。特に同辞書と千村訳と一致する訳語の中、二字以上の漢語^{※2}のみを調べてみると、31 語のうち 17 語が先行する訳書にも見られないことから、千村訳の訳者は独自に同辞書を参照していた可能性が高いものと見られる。以下に、先行する訳書には見られず、同辞書にのみ見られる 17 語をあげる。

故意 (Intention)、原由 (Cause)、故意 (Purpose)、弁別 (Distinction)、損害 (Injure)、悔恨 (Regret)、悪意 (Malice)、誡命 (Command)、記性 (Memory)、父親 (Father)、交遊スル (Associate)、教誨 (Teach)、滅亡 (Destruction)、指示スル (Direct)、禁止スル (Forbid)、思慮 (Thought)、自省 (Self-examination) (下線の引いてある語は、生存語である)

ほとんどが抽象語であり、うち半分以上が生存語である。死語となった語も難解な語はほとんどない。これから千村が『英華字典』の訳語を相対的に多く取り入れているとはいえ、できるだけ易しい漢語の取り入れに努めたことが言えるだろう。

次に、『英和字彙』初版との関係を見ると、この辞書とは阿部訳との一致率が最も高い。阿部訳は同辞書より前の書籍なので、阿部訳が同辞書から影響を受ける可能性はほとんどないと思われる。これは同辞書が阿部訳からの間接的影響を受けたか、一致する語が当時として勢力を得ていたため偶然に一致しているかのどちらかであろう。謝海訳は同辞書の後の書籍であり、5 種の中で時期的に最も近いにもかかわらず、訳語の一致率は意外に低い。これから、当時は訳語の非安定期であり、各自で別々の訳語を用いていたことが言える。次に、山本訳が謝海訳・平野訳より同辞書との訳語の一致率が高いのは、阿部訳の影響ともかかわっているだろう (4 章参照)。

次に、『英和字彙』再版と訳書との関係を見てみよう。まず、同辞書の刊行から最も離れている阿部訳との訳語の一致率が最も高いのは何故だろうか。当時は、辞書の編集者が辞書の編集に当たり、先に刊行された翻訳書を参照する可能性は非常に少なく、逆に翻訳者が当時刊行された対訳辞書を参照する可能性は非常に高いと思われる。従って、両書の間で一致する語が多いのは、直接的な影響よりは阿部の用いている語が訳語として安定していて、自然に『英和字彙』再版へ影響を与えたことになるだろう。つまり、同辞書が阿部訳からの間接的影響を受けていると言える。なお、阿部訳は同辞書へのみではなく、現代語へも大きな影響を与えている (5 章参照)。これは阿部訳の出版が文部省であり、全国的に多くの府県で翻刻されて当時刊行されていた修身書の中では、最も多く使用されていた一書である^{※3}からであろうが、別の観点から言えば、阿部の選択眼が優れていたからこそ、影響力が大きかったと思われる。千村訳は同辞書と刊行年が同じであり、両書間の訳語の一致率は最も高いのが期待されるものの、実際は平野訳を除く 4 種のうち最も低い。一方千村訳を除く訳書では、『英華字典』より『英和字彙』初・再版との一致率が、相対的に高くなっているものの、千

村沢のみは逆となっている。このように『英和字彙』より『英華字典』との一致率が高いのは、千村が『英華字典』を参照した可能性が高いことのほかに、『英和字彙』再版が刊行された明治15年頃までに訳語が定着していなかったことをも物語る。

3.2 明治期漢語辞書との関係

明治期には数多くの漢語辞書が刊行されており、その集大成と言える『明治期漢語辞書大系』（1995－1997）では、約140点の漢語辞書を収録している。ここでは以下の漢語辞書を取り上げ、対訳辞書との関係も含めて各訳書の性格を明らかにしたい。

- ・『新令字解』慶応4年6月刊、萩田嘯、見出し語数：904語
- ・『漢語字類』明治2年1月刊、庄原謙吉、見出し語数：4340語
- ・『必携熟字集 巻上・巻下』明治12年5月刊、村上快誠、見出し語数：19360語（巻上：10720語、巻下：8640語）

『新令字解』の凡例に「太政官日誌、行在所日誌、および周旋家応酬ノ語中」とあり、『漢語字類』では「朝廷ノ制令方伯ノ啓奏ヨリ下モ市井閭閻ノ言談論議ニ至ルマテ皆多ク雑ユルニ漢語ヲ以テス而シテ童蒙ノ士之ヲ目シテ読ム能ハス之ヲ耳シテ解ク能ハス」とある。これから両辞書は『太政官日誌』を始めとする日誌や新聞を集めたはずである。なお『必携熟字集』では、「此書ハ官令律書等ヨリ抄出シタル必用ノ漢語熟字ニシテ戸之ニ音ヲ施シ下ニ註釈ヲ加ヘ（中略）△符ヲ以テ俗語ヲ分チ雅俗諸般ノ文章及ヒ詩作ノ用ニ供フ是ヲ其必携ト名クル所以ナリ」とあり、難解な漢語はもとより日常語も収録していることが分かる。これは見出し語数が二万弱であることから推し量ることができる。つまり『新令字解』・『漢語字類』と『必携熟字集』とは、編集目的においても見出し語数においても大きく異なる。

上記の漢語辞書は、二字以上の漢語のみを収録している。従って、ここでは本稿の対象訳語の中、二字以上の漢語のみを抽出して調査にあたる。各訳書における二字以上の漢語数は表3のとおりである。

表3 各訳書における二字以上の漢語数

翻訳書	①阿部訳	②謝海訳	⑤山本訳	⑥平野訳	⑨千村訳
本稿の対象訳語数	320	173	96	280	136
二字以上の漢語 (%)	138 (43.1)	62 (35.8)	40 (41.7)	227 (81.1)	85 (62.5)

（カッコ内の数字は、本稿の対象訳語数に対する割合である）

二字以上の漢語の割合では、平野訳が8割以上を占めており最も高い。つまり平野訳では、訳語のほとんどが漢語を用いており、和語はごく一部に過ぎないことである。表4に各訳書における二字以上の漢語と3点の漢語辞書との一致する語を示す。

表4 漢語辞書と一致する訳語数

翻訳書	①阿部訳	②謝海訳	⑤山本訳	⑥平野訳	⑨千村訳
『新令字解』	11 (8.0)	5 (8.1)	4 (10.0)	7 (3.1)	3 (3.5)
『漢語字類』	30 (21.7)	11 (17.7)	8 (20.0)	42 (18.5)	11 (12.9)
『必携熟字集』	97 (70.3)	43 (69.4)	28 (70.0)	145 (63.9)	52 (61.2)

(カッコ内の数字は、各訳書における二字以上の漢語数に対する割合である)

上の表は、当時の漢語がどのくらい訳語として採用されているかを見る上で良いと思われる。各漢語辞書と訳書との一致率を見ると、『新令字解』では一割以下にとどまており、『漢語字類』は二割前後を占めている。なお『必携熟字集』は七割前後を占めており、各漢語辞書の見出し語が多くなれば多くなるほど、訳書との一致率も一律に高くなっている。従って、この割合のみでは、何の特徴も見出すことができない。そこで、3点の漢語辞書の中、見出し語が最も多い『必携熟字集』のみを取り上げ、対訳辞書との関係と一緒に考えてみたい。但し対訳辞書では『英華字典』と『英和字彙』初版のみを一つにくくって異なり語で数えた。調査の結果を別表1に示す。表5では、各訳書におけるA・B・C・Dの割合を示した。

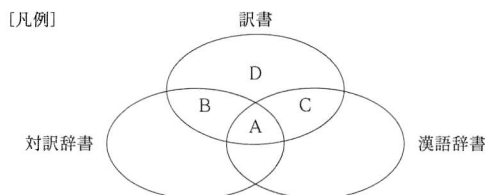


表5 各訳書におけるA・B・C・Dの割合

	①阿部訳	②謝海訳	⑤山本訳	⑥平野訳	⑨千村訳
A	44.2	38.7	37.5	24.7	35.3
B	10.1	8.1	10.0	5.7	9.4
C	26.1	30.6	32.5	39.2	25.9
D	19.6	22.6	20.0	30.4	29.4

(上の表の数字は、各訳書における二字以上の漢語数に対する割合である)

Aは、訳書・対訳辞書・漢語辞書の3点で共通する語を示しており阿部訳が最も高い。これは、阿部訳では対訳辞書と漢語辞書に共通する語が最も多いことを意味しており、阿部が訳語の選択においてできるだけ安定している語を用いようとしたことが分かる。阿部訳でCの割合が低いのは、阿部が福沢諭吉の高弟であり、福沢が国語の平易化と漢字制限に努めた²⁴ こととかわっているだろう。

反面、平野訳は最も低く、特にCとDで目立つのは、平野訳の割合が最も高いこと

である。これはもちろんAが低いからであろうが、例えば、

舎密家 (Chemist)、方術 (Direct)、穿踰 (Steal)、毆奪 (Cruelty)、致累 (Trouble)、
感悟 (Feel)、礎或 (Abuse)、隠諱 (Conceal)、剽奪 (Take) ……

のように、対訳辞書にも漢語辞書にも載っていない独自の語 (D) が多いことと、漢語辞書のみと一致する語 (C) が多いことを意味する。つまり漢語としては存在している、訳語としては採用されていなかった語を多く用いていることになる。

4 阿部訳と山本訳

一つの原本にいくつかの訳書が存在する場合、訳書同士の影響関係は十分考えられることである。特に先行する訳書の普及率が高い場合は、後続の訳書に影響を与える可能性が一層高くなる。ここではいくつかの統計から見て最も可能性が高いと見られる、阿部訳と山本訳との影響関係を明らかにしたい。まず、原文と各訳書の訳文を取上げて比較して見よう。

(原文) If a boy tell a lie, though no one know it, or swear, though no one hear him, or break the holy Sabbath, though no one can see him, he feels guilty of a sin against God, and he justly fears that God will Punish him. If he steal his neighbor's property ……

(阿部訳) 論へハ茲ニ一童子アリ虚誕ヲ吐キ或ハ誓ヲナシ或ハ礼拝日ヲ犯ス時ハ人之ヲ聞見セサレトモ自ラ其身ノ罪ヲ天ニ得タルヲ覺エ天罰ヲ蒙ルヘキコトヲ恐ル又物ヲ盗ミ……

(謝海訳) それ故に、たとひ誰も知らぬことといへども、人が形なきことすなわち虚言を吐くとか、又仮令誰も聴かぬといへども、或ハ他人を罵詈り、又仮令たれも神明さまを見ることハ、なりぬといへども、或ハ神明さまの御教を犯し破り、などするなれば、其人は必ず自ら其ところの中にて (中略) 其隣の人の持ものを盗み取り……

(山本訳) 譬ハ童子アリ、虚誕ヲ吐キ神ヲ渎シ礼拝日ニ背ケバ人ノ之ヲ見聞スル者ナケレドモ自カラ天罰ヲ恐レルベク物ヲ盗ミ……

(平野訳) 譬ハ若シ童子ト誰モ発覚スル者ナシト雖モ窃ニ妄誕ヲ吐キ或ハ誰モ聴カスト雖モ上帝ヲ渎褻スルトキハ或ハ誰モ目撃スル者ナシト雖モ耶蘇ノ祭式ヲ破蔑スルトキハ彼レハ上帝ニ悖リ罪過ニアルヘク感悟ス且彼レハ上帝ノ己レヲ罰責センコトヲ感々畏懼スレハ至当ナリ。童子若シ其隣人ノ所有物ヲ穿踰シ……

(千村訳) 該当箇所ナシ

上記の5種の訳文を比較してみると、直訳か意識か抄訳かによって文章の長さなどに違いが見られる。原文に忠実な阿部訳もあれば意識の謝海訳もある。なお、千村訳

のように抄訳であるため該当箇所のないものもある。とにかく、訳語の選択などからして、山本訳が阿部訳を参照したことは明らかである。

次に、訳語の方を見てみよう。阿部訳と他の訳書と一致する訳語を見ると、表6のとおりである。

表 6 ①阿部訳と他の訳書と一致する訳語

訳書	②謝海訳	⑤山本訳	⑥平野訳	⑨千村訳
一致訳語数 (%)	58 (33.5)	55 (57.3)	57 (20.4)	40 (29.4)

(カッコ内の数字は、各訳書の対象訳語数に対する割合である)

阿部訳との訳語の一致率は山本訳が57.3%と、他の訳書に比べて格段に高いことから、山本訳が阿部訳を参照した可能性は高いと見られる。なお表2を見ると、阿部訳と山本訳は、『英華字典』との訳語の一致率において同様に高い割合を見せている。これは阿部訳が『英華字典』から受けた影響を、山本訳ではどのくらい受けているかを見る上で良いと思われる。では、両訳書へ共通に影響関係が考えられる『英華字典』との一致する訳語を比較してみることによって、両訳書間の影響関係をよりはっきりさせたい。『英華字典』と山本訳との一致する語が41語あるが、そのうち阿部訳とも一致する語、つまり阿部訳が『英華字典』から受けた影響を山本訳でも受けていると思われる語が32語(78.0%)もある。つまり阿部訳が『英華字典』より取り入れた語のほとんどは、山本訳でもそのまま取り入れていることが分かる。

次に、阿部訳と「一致する語」と「一致しない語」の全例をあげて、それぞれの性格を明らかにしたい。『英華字典』と一致する用例には下線を引いておく。一致しない語には阿部訳の訳語と比較できるように用例のカッコ内に阿部訳の訳語を入れる。さらに、『英華字典』の訳語を両訳書ではどのように取り入れているかを見てみたい。

「一致する語」…………… 55語

関係 (Connection)、原因 (Cause)、実効 (Effect)、水 (Water)、冷ス (Cool)、氷 (Ice)、凍ル (Freeze)、蒸気 (Vapor)、方向 (Direct)、度 (Degree)、熱 (Heat)、虚誕 (Lie)、盗ム (Steal)、楽シキ (Pleasure)、苦シミ (Pain)、目的 (Purpose)、畜類 (Animal)、人 (Man)、偶然ニ (Accident)、傷ク (Injure)、害フ (Injure)、球 (Ball)、打ツ (Strike)、貧人 (The poor)、富人 (The rich)、歩スル (Walk)、歩行スル (Walk)、足 (Leg)、脚 (Leg)、視ル (See)、聴ク (Hear)、耳 (Ear)、感ズル (Feel)、精神 (Mind)、童子 (Boy)、礼拝日 (Sabbath)、恐ル (Fear)、物 (Property)、怒リ (Angry)、父 (Father)、童子 (Child)、買ウ (Buy)、救ウ (Relieve)、行ウ (Perform)、過ギル (Pass)、研ク (Improve)、常ニ (Habitually)、教エル (Teach)、懐ク (Dwell)、交ル (Mingle)、自滅 (Destruction)、禁ズル (Forbid)、謝スル (Thankful)、行ク (Go)、命 (Command)

(下線の引いてある語は『英華字典』と一致する語である)

[一致しない語] 41 語

沸スル (Boil、蒸発スル・沸騰)、分別 (Distinction、區別)、抛ル (Throw、投
ゲル)、父 (Parents、父母)、眼 (Eye、目)、思エル (Think、考エル・思念スル)、
記スル (Remember 記憶スル・想起スル)、慣習 (Habit、習慣)、裨益 (Useful、
有益)、行状 (Action、所作・所行)、法則 (Law・定則)、天帝 (Creator・天)、
物 (Food、食物)、愛敬スル (Love、愛スル・愛慕スル)、慈悲心 (Charity、慈
悲)、記憶力 (Memory、記憶)、欺ク (Cheat、騙ス)、朋 (Playmate、伴)、善
(Right、是)、悪 (Wrong、非)、金 (Money、錢)、玩物 (Toy、玩具)、決定ス
ル (Resolve、決スル・決意スル)、分別スル (Decide、決スル)、談ズル (Converse、
談論スル)、志念 (Intention、志・目的)、修身学 (Moral science、修身論)、化
スル (Change、変ズル)、勢力 (Power、力)、許ス (Direct、命ズル)、深切 (Kindness、
親切・好意)、内心 (Internal、内部)、分別スル (Feel、覚エル)、玩物店 (Toy-shop、
玩具店舗)、情慾 (Selfish、私欲)、玩物 (Toy、玩具)、朋 (Company、友)、賜
ル (Give、賦与スル)、儀軌 (Example、規範)、先哲 (Jesus-Christ、先賢)、得
ル (Receive、乞ウ)

(下線の引いてある語は『英華字典』と一致する語であり、カッコ内の語は阿部訳
の訳語である)

阿部訳と一致する語が 6 割弱を占めており、一致しない語よりやや多い。では、山
本訳が阿部訳から、どのような語を取り入れたかを見てみよう。なお『英華字典』と
の影響関係も一緒に考えてみたい。『英華字典』と山本訳との一致する 41 語の中、阿
部訳とも一致する語は 32 語で 8 割弱を占めている。言いかえれば、『英華字典』と山
本訳との一致する語の大部分は、阿部訳と一致する語に含まれていることになる。こ
れは阿部訳が『英華字典』より取り入れた訳語が山本訳へも影響を与えていることを
意味する。しかし、『英華字典』と一致する語には、「実効」、「虚誕」、「偶然」、「礼拝
日」のような漢語も含まれているが、そのほとんどは、例えば、「人」、「脚」、「水」、
「氷」、「視ル」、「父」、「聴ク」、「買ウ」などのような日常語である。このような日常語
は両書間の影響関係というよりは偶然に一致している可能性が高い。従って阿部訳と
一致する語の性格は、むしろ『英華字典』と一致しない語を分析することによって、
明らかになってくると思われる。以下に、阿部訳と一致する語のうち『英華字典』と
は一致しない語のいくつかに対し、前後の訳書の訳語とともにあげる。

関係／連結、原因／原由、蒸気／軽気・汽、方向／方術、目的／目途、精神／心・
意識・神経、畜類／禽獣・獣、貧人／貧乏人、富人／富者・有力者、童子／子供・
幼者

(／の前の語は山本訳の訳語であり、後の語は他の訳書の訳語である)

上記の用例で分かるように、当時山本訳が選択した訳語の他に様々な訳語が存在し
ていた。にもかかわらず、山本訳では阿部訳と同じ訳語を用いており、これから考え

ると山本訳が阿部訳を参照した可能性は非常に高いと思われる。

次に、阿部訳と一致しない語を詳しく分析してみよう。まず、どちらを使っても良さそうな語が多い。

沸スル／沸騰、抛ル／投ゲル、眼／目、記スル／記憶スル、決定スル／決スル、
談スル／談論スル、愛敬スル／愛スル、欺ク／騙ス、朋／友、化スル／変ズル、
金／錢慈悲心／慈悲ノ念、記憶力／記憶ノ力

(／の前の語は山本訳の訳語であり、後の語は阿部訳の訳語である)

動詞がほとんどであり名詞でも訳語の非安定とはあまり関係なさそうな語がほとんどを占めている。だから、これは影響関係以前の問題であり、むしろ訳者の好みに属するものであろう。

次に、翻訳態度の違いによるものには、以下の用例がある。

(原文) I send food to a sick man, and the food gives him pain;

(阿部訳) 譬へハ病人ニ食物ヲ贈リ之カ為メニ病苦ヲ増スコトアルカ如シ

(山本訳) 病人ニ物ヲ贈ル―ヲ其物却テ病人ノ苦ヲ増類

(原文) Be in the habit of reflecting upon your action, and of deciding carefully whether they were right or wrong.

(阿部訳) 常ニ己ノ行ヲ省ミ其是非ヲ決スヘシ

(山本訳) 又事ヲ行ヒシ後退テ其是非ナリシヤ非ナリシヤヲ分別スベシ

用例の「物／食物」、「分別スル／決スル」は、意味が全然異なるように見られるものの、訳文内では Food・Decide の訳語として意味が通じるのである。これに属するものには他に、「分別スル／決スル」、「許ス／命ズル」、「分別スル／覚エル」、「情慾／私欲」などの用例がある。この種のものは、訳者の翻訳態度により文章に違いが生じるものである。以上の分析により、阿部訳と一致しない語が 5 割弱を占めているとはいえ、ここには訳者の翻訳態度によるもの、どちらを使っても良さそうなものが大半を占めていることが分かった。つまり、これらの語は訳者の好みによって生じた現象であり、これらの語を除くと阿部訳を参照した可能性は非常に高くなる。

5 訳語の生存率

ここでは、明治初期に訳された各訳書の訳語が、現在どのくらい生き残っているかを調べて見ることによって、各訳書の特徴および影響力などを見てみたい。各訳書における生存語数は、表 7 のとおりである。

表 7 各訳書の生存語数

訳書	①阿部訳	②謝海訳	⑤山本訳	⑥平野訳	⑨千村訳
生存語数 (%)	173 (54.1)	95 (54.9)	43 (44.8)	94 (33.6)	60 (44.1)

(カッコ内の数字は、各訳書の対象訳語数に対する割合である)

訳語の生存率は時代が下るにつれて、高くなることが期待されるものの、実際は全体の傾向から言えば、段々低くなってきている。この現象は訳者の訳態度によって生じることであろうが、別の観点から言えば、明治初期に訳語が安定していなかったことを物語ることにもなる。つまり、幕末明治初期に造られた訳語は、時代が下るにつれて段々定着に向かっていくことが期待される。しかし、この資料で見る限りは明治 15 年頃までに相当の訳語が定着しておらず、様々な訳語が試みられていたことが言える。特に、阿部訳は最も早い時期の訳書にもかかわらず、②とわずかな差で第 2 位に位置している。これは先に述べたように、この訳書が文部省刊行であり普及率も高かったことなどから十分予想できるとはいえ、訳者の訳語の選択眼が優れており、それが現在までも影響していると言えよう。謝海訳の場合は、絶対数は阿部訳に比べて遥かに少ないものの、生存率では最も高い。特に、この訳書は『英華字典』とか『英和字彙』初版などの対訳辞書からの影響が阿部訳に比べて遥かに少ないものの、比較的平易な訳語を用いており、訳語の生存率は 5 種のうち最も高い。先行する対訳辞書および訳書の訳語と一致しない、つまり謝海訳が独自に用いて生存語となった語は、

オキテ (Law)、法則 (Law)、蒸気 (Vapor)、誠実 (Truth)、人間 (Man)、金モチ (The rich)、本心 (Heart)、覚エル (Remember)、貰ウ (Receive)、恥カシイ (Ashamed)、見付ケル (Find)、考エル (Reflect)、大切ナル (Importance)、足 (Leg)、子供 (Child)、金 (Money)、仲間 (Company)、混ジル (Mix)、世ノ中 (World)、未来 (Eternity) ……

などのように、比較的易しい訳語を当てて生き残ったものと見られる。

平野訳では、対訳辞書との一致率が 3 割以下にとどまっていることから、独自に用いている訳語が多いことになろうが、訳語の生存率を見ると 5 種のうち最も低い。対訳辞書および先行する訳書に見られず、平野訳が独自に用いて死語となった語をあげると、以下のとおりである。

舎密家 (Chemist)、方術 (Direct)、妄誕家 (Liar)、穿踰スル (Steal)、舶殺 (Murder)、殴奪 (Cruelty)、擯斥 (Despise)、致累 (Trouble)、足脛 (Leg)、礎或スル (Abuse)、憤懣 (Angry)、隠諱 (Conceal)、手臂 (Arm)、訓教スル (Teach)、悖戾スル (Disobey)、遅弛 (Late)、隠解スル (Allude)、妄誕 (Lie)、審実スル (Inquire)、剽奪スル (Take)、饒恕 (Future) ……

ほとんどが難解な漢語を用いていることから、生存語が少ないのは当然であろう。

6 おわりに

以上、明治初期に訳された5種の『修身学』を取り上げ、対訳辞書・漢語辞書との影響関係および訳書同士の影響関係を中心に考察を行った。その結果をまとめると、以下のとおりである。

阿部訳は、『英華字典』からの影響を強く受けており、後続の山本訳に大きな影響を与えている。なお、阿部訳の訳語の生存率は謝海訳とわずかな差で第2位と、明治5年の訳書にもかかわらず非常に高く、現代語に与えた影響も大きかったと言える。これは阿部訳が文部省刊行であり、普及率も高かったこととかかわっているだろう。

次に、漢語辞書との関係では、阿部訳は対訳辞書と漢語辞書に共通する語が最も多い。これは訳語の選択において比較的安定している語を多く用いていることを意味する。別表1のCとDで目立つのは、平野訳の割合が最も高いことである。これはAが少ないからであろうが、対訳辞書にも『必携熟字集』にも載っていない独自の語(D)が多いことと、『必携熟字集』のみと一致する語(C)が多いことを意味する。つまり漢語としては存在していても、訳語としては採用されていなかった語を多く用いていることになる。

訳書には謝海訳と平野訳のように、当時の対訳辞書とか先行する訳書からの影響をほとんど受けておらず、独自の訳語を多く用いているものもある。両書の生存率を見ると、謝海訳は独自の訳語とはいえ、比較的平易な訳語を当てており生存率も最も高い。しかし平野訳では難解な漢語を訳語として多く用いており、死語となったものと見られる。なお、千村訳は明治15年の訳書にもかかわらず、先行する訳書に比べて訳語の生存率が低い方であるが、これは明治15年頃までに訳語が安定しておらず揺れていたことを物語る。

山本訳は阿部訳からの影響を強く受けていると言えよう。山本訳は阿部訳との訳語の一致率が他の訳書に比べて格段に高く、特に山本訳と『英華字典』と一致する訳語(41語)の8割弱は阿部訳とも一致している。つまり、阿部訳が『英華字典』より受けた影響を、山本訳でもそのまま受けていることを意味しており、これは両書間の影響関係をより一層裏付けることになる。

注1 伊藤(1969)の「福沢のモラルとウェーランドの『修身論』」による。

注2 『英華字典』との影響関係を考える上で、二字以上の漢語に限った方が良いと思われる。何故なら一字漢語の場合、例えば、「水」、「氷」、「人」、「耳」、「目」などのような日常語が多く、一致していても影響というよりは偶然一致している可能性が高いからである。

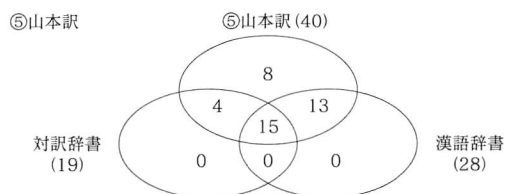
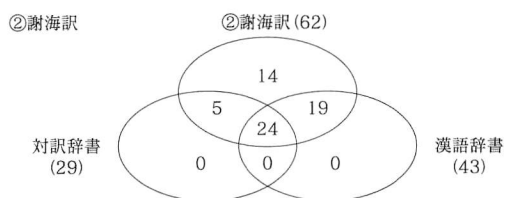
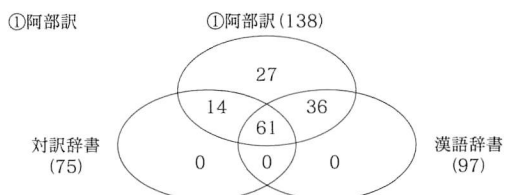
注3 海後(1961-1962)の解説による。

注4 伊藤(1969)の36-41頁を参照。

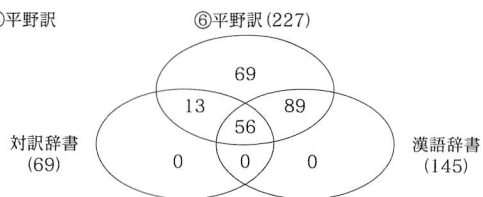
参考文献

- 海後宗臣（1961－1962）『日本教科書大系近代編 3 修身（三）』講談社
 森岡健二（1969）『近代語の成立 明治期語彙編』明治書院
 伊藤正雄（1969）『福沢諭吉論考』吉川弘文館
 山田忠雄（1981）『近代国語辞書の歩み』三省堂
 鈴木 泰（1988）「ウェイランド『修身論』の漢字」『漢字講座 8 近代日本語と漢字』
 明治書院
 松井栄一・松井利彦・土屋信一（1995－1997）『明治期漢語辞書大系』大空社
 朴 均轍（2000）「『干渉論』の訳語」『国語国文研究』115

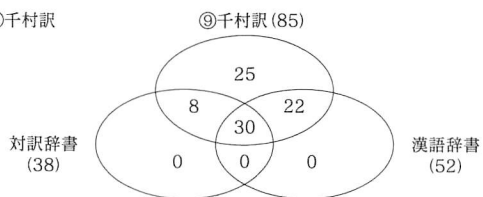
〈別表〉



⑥平野訳



⑨千村訳



(ばく きゅんちよる・韓国、漢陽大学校非常勤講師)